

くらしにやさしい街…志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

3月1日 (No.45・春は駆け足で号)

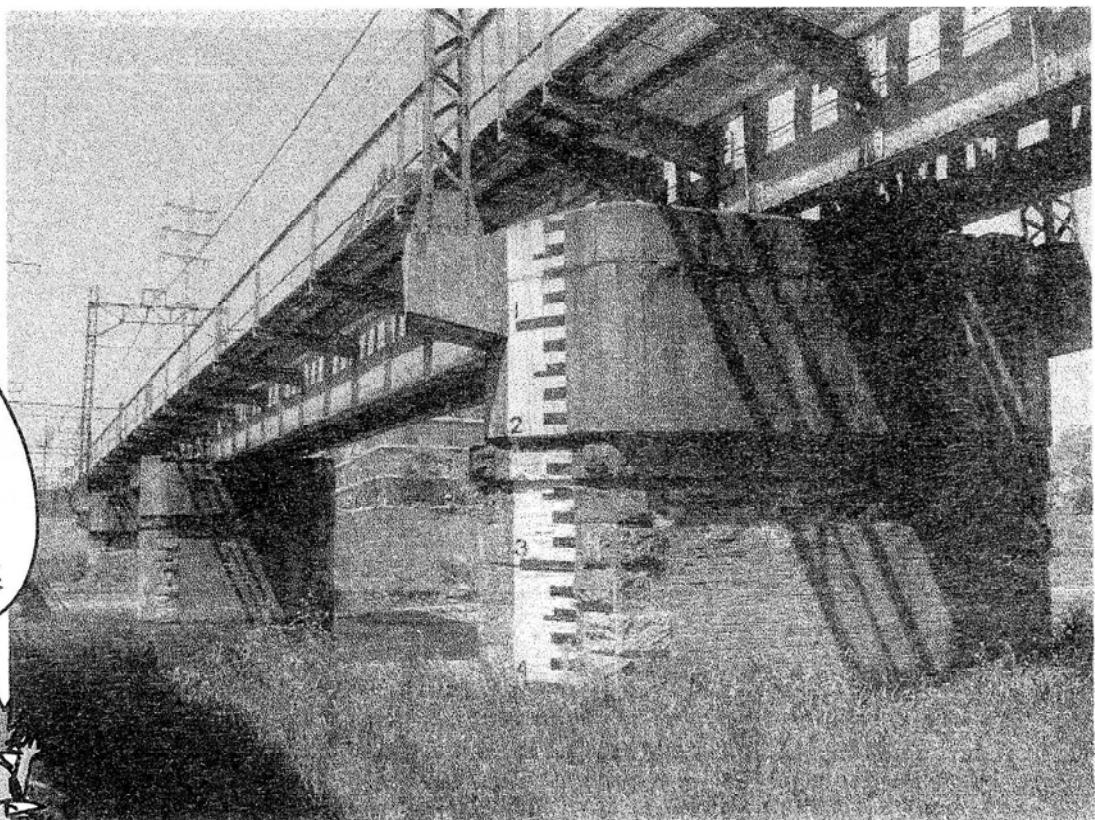
2007  
＊  
3月

NPO法人工コシティ志木

代表理事 天田 真

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田 真

勝手にレッドデータ of 志木 (31)

## 東上線のレンガ橋脚

舟運で栄えた志木の町でも明治後半には鉄道敷設の運動が始まりました。東上鉄道は1914（大正3）年に池袋～田面沢（現川越市）で開通し、誘致運動が功を奏して志木にも駅ができました。柳瀬川橋梁には当時つくられたレンガの橋脚・橋台が残っており、93年経った今でも健在です。但し上部のコンクリート部分は後の改造で、竣工時は全部レンガ製でした。付近には他にも4組（柳瀬川駅の両側に2組、柳瀬川左岸に2組）のレンガ橋台が残っています。 （天田 真）

1/7  
(日)

埼玉県生態系保護協会主催

## 県内一斉ガンカモ調査

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催「県内一斉ガンカモ調査」が行われ、参加した同協会志木支部、富士見支部に調査協力をしました。

当日は微風快晴の絶好の調査日和となり、志木大橋から志木市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者12名で歩いてガン・カモ類の種類と数を数えました。

県内全体のカモは、18種38、840羽（昨年17種36、990羽）、柳瀬川で観察されたアメリカヒドリは、県全体でも6羽しか見られていません。

柳瀬川では、カモは7種370羽で、昨年と種数は変わらず、数は約100羽増加でした。内訳は次のとおりです。（）は昨年

ヒドリガモ 74羽（106羽）

オナガガモ 45羽（25羽）

コガモ 209羽（89羽）

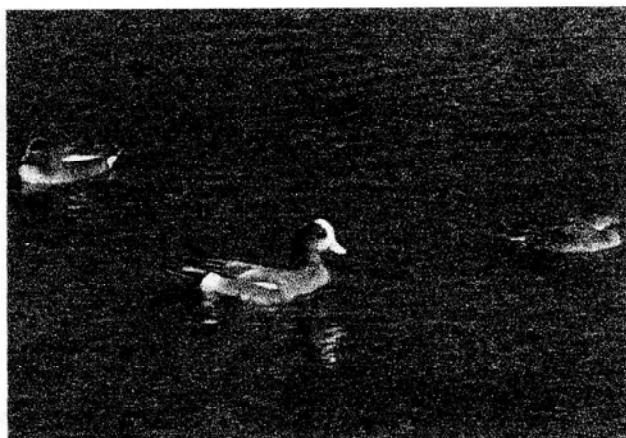
カルガモ 33羽（46羽）

マガモ 7羽（7羽）

ハシビロガモ 1羽（1羽）

アメリカヒドリ 1羽（1羽）

（山崎 光久）



柳瀬川のアメリカヒドリ

2/3  
(土)

こどもとおとの自然塾(5)

## 冬の渡り鳥を見てみよう

とても真冬とは思えない好天気に恵まれた観察会になりました。集まったのはこども4名とおとな25名の総勢29名でした。

観察会の前に、埼玉県作成のリーフレットを使って「野生動物に餌を与えないで」のお願いをしました。

カモに餌を与えると、①人の食べ物は栄養価が高く、太りすぎてシベリヤへ帰る体力がなくなる。②人を恐れなくなるのでシベリヤで簡単に捕まってしまう。③鳥ウイルスに感染する危険性がある。等カモのためにも人のためにも良いことはありません。

柳瀬川に沿って、カモ類では、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、セキレイ類ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ等合計25種類の野鳥が観察されました。アメリカヒドリも見ることが出来ました。

当日は、ケーブルテレビのメディアティ東上の収録があり、2月9日から22日までコミュニティチャンネル（5ch）の「こちら情報局！」の中で放映されました。（山崎 光久）



ケーブルテレビでも放映されました

# 2006年 柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)の記録

2006年は11回の調査で47種類の野鳥を確認しました。

柳瀬川での特徴は冬の渡り鳥が多く、夏に繁殖する鳥が少ないという傾向にあります。  
(毛利)

## ●調査方法

- A) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施（悪天候の場合は中止）  
B) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の名前と数を記録。

## C) コース

- (1) 柳瀬川右岸 志木中学校前～高橋
- (2) 柳瀬川右岸 高橋～栄橋
- (3) 栄橋～旧柳瀬川～高橋
- (4) 柳瀬川左岸 高橋～水谷田んぼ～富士見橋
- (5) 柳瀬川右岸 富士見橋～志木中学校前

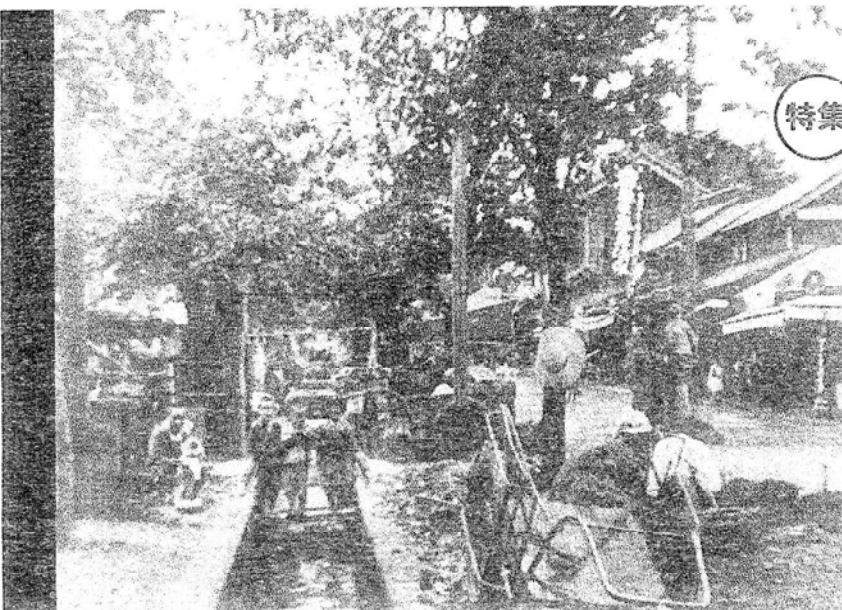
- D) 本調査は「柳瀬川ウォッチング」として1997年6月より行っています。

※12月は悪天等のため中止しました。※集計=山崎光久

\*主催=NPO法人エコシティ志木／(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

鳥名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 カワウ	326	2	1	0	2	0	0	2	1	3	5	0
2 アオサギ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
3 ダイサギ	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
4 チュウサギ	0	0	0	0	0	0	15	2	0	0	0	0
5 コサギ	3	2	2	1	3	7	14	3	4	5	2	0
6 ゴイサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
7 カルガモ	25	13	10	18	20	35	12	6	44	17	12	0
8 コガモ	103	44	77	30	0	0	0	0	0	10	26	0
9 ヒドリガモ	22	50	33	0	0	0	0	0	0	0	15	0
10 オナガガモ	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 タシギ	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
12 セグロカモメ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 オオタカ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
14 キジ	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0
15 コチドリ	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
16 イカルチドリ	8	15	5	1	0	3	1	18	17	12	25	0
17 イソシギ	4	3	6	3	0	0	0	2	3	4	2	0
18 ユリカモメ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19 キジバト	1	7	5	5	6	5	3	3	10	3	5	0
20 カワセミ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21 コグラ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
22 ヒバリ	14	5	0	8	5	5	0	0	0	6	2	0
23 ツバメ	0	0	0	23	18	20	14	9	2	0	0	0
24 イワツバメ	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
25 キセキレイ	4	6	1	0	0	0	0	0	0	5	1	0
26 ハクセキレイ	23	19	9	5	3	2	3	2	1	28	27	0
27 セグロセキレイ	8	1	6	4	2	0	0	0	1	1	11	0
28 タヒバリ	9	18	5	0	0	0	0	0	0	0	25	0
29 ヒヨドリ	24	11	17	17	5	3	3	0	1	16	9	0
30 モズ	5	2	0	0	0	0	0	0	1	4	4	0
31 アカハラ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32 ツグミ	1	14	15	13	0	0	0	0	0	0	1	0
33 オオヨシキリ	0	0	0	0	19	14	3	0	0	0	0	0
34 セッカ	0	0	0	1	3	1	0	6	0	1	0	0
35 シジュウカラ	2	3	1	1	6	3	2	0	3	4	0	0
36 メジロ	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
37 ホオジロ	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38 コホオアカ?	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39 カシラダカ	12	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40 アオジ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
41 カワラヒワ	17	14	29	0	1	0	11	3	0	21	28	0
42 シメ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43 スズメ	125	104	81	86	33	36	68	45	230	79	194	0
44 ムクドリ	10	66	44	53	38	22	26	22	27	16	111	0
45 オナガ	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0
46 ハシボソガラス	10	4	10	4	3	3	3	2	2	2	3	0
47 ハシブトガラス	17	1	50	7	35	12	8	3	10	15	12	0
ドバト	0	60	0	25	0	14	2	10	14	54	50	0
アヒル	0	0	2	0	0	3	0	0	1	0	0	0
アイガモ	0	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0

冬鳥



大正後期の市場通りを流れる野火止用水（ふるさと写真集『志木市より』）

# 野火止用水と志木

志木市教育委員会生涯学習課 今野 美香

## ●野火止用水の開削

昭和40年まで、志木市本町1～2丁目付近を通る市場通りの中央には、野火止用水が流れていました。

野火止用水は、川越藩主で幕府の老中でもあつた松平伊豆守信綱が野火止新田の開発を目的として開削した用水で、その普請を高い測量技術を持つ家臣安松金右衛門に命じ、承応4年(1655)に完成させました。この用水は、とり入れ口の多摩郡小川村(現 東京都小平市)から末端の新座郡引又村(現 志木市本町周辺)まで全長約20kmあまりの用水で、玉川上水の分水33カ所のうち、最古、最大、最長の用水であり、さらに川越藩という私領への分水としては唯一のものでした。

野火止用水は、以来300年以上の永きにわたり灌溉用水や飲料等の生活用水として利用され、流域の人々に潤いを与え続けてきました。

## ●おいしかった水と美人

野火止用水は、とりわけ東武東上線以西の地域では長い間利用され、明治以降も飲み水として使われていましたが、水道の水よりおいしかったといわれています。

また、本流や支流のわきには、各所に段差がつけられ、飲み水から風呂水、洗顔、炊事や洗濯、さらには産湯にまでと多目的に使われていたようです。

また、用水の水で顔を洗うと、肌につやが出たそうで、肌のきれいな美人が用水の流域には多かったという話も伝わっています。

また、志木市域での野火止用水の様子をご自宅の前に用水が流れていた高橋利一さん(83歳)

にお伺いしました。

高橋さんによると、市場通りを流れている野火止用水は、昭和14～15年くらいまでとても水量が多く、子どもがおぼれるくらいの深さがあり、その水を洗濯や風呂水などに利用されていたそうです。しかし、井戸の少なかった新座市西堀地区周辺などと違って、飲み水には井戸水を使っていたそうです。

また、大雨が降ると水が白く濁り、その時には、水を溜めておいて上澄みを利用したことや、分水された野火止用水の水が中野下住宅あたりにあった田んぼの水としても利用されていたことを語ってくれました。

## ●野火止用水の水質管理

用水は、江戸時代から流路の9カ村で作った組合で管理してきました。また、平林寺(新座市)も用水での魚とりや用便、洗濯の禁止、古草履やごみの投げ捨ての禁止などの禁止事項をかいだ高札を掲げて用水の水質管理に努めてきました。

志木市域でも、戦前までは、志木地区の人々は、新座市西堀の分水口まで、宗岡地区の人々は、志木駅のそばにあった踏切あたりまで、それぞれ年に2回堀ざらいに出かけたそうです。このような流域の人々の努力があったため、分水口から実に約20km末端に位置する志木地区の人々でさえ生活用水として利用することができたのでした。

## ●用水から水道へ

昭和24年、衛生状態を視察するために埼玉県内を巡回していた占領軍埼玉県軍政部衛生課長グラディス・W・ローラ女史が北足立郡大和田町(現 新座市)で、野火止用水を視察した際、人々が用水の上流で炊事や洗濯をし、下流で飲み水に使っている様子を目撃したことがきっかけとなり、直ちに埼玉県衛生部による野火止用水の保菌検査が実施されたところ、飲料水には不適合という結果が出て、これが埼玉県や大和田町の上水道敷設への契機となりました。

まず、昭和24年に、大和田町の菅沢、大和田西分150戸を対象とする簡易水道が誕生しました。このとき、約1,000人の人たちが初めて水道の水を口にしました。

野火止用水の終焉をもたらしたのは、実はこのローラ女史の「不潔宣言」だけではありませんでした。

昭和26年に用水を飲み水としていた野火止の東地区などから軽症者まで含めると50人以上の赤痢患者が発生したことが一番の原因でした。

この時既に完成していた簡易水道の水を飲用していた地域からは、1人も患者が出なかったこともあり、簡易水道の普及がこの後一層進んでいきました。

志木市域において、初めて上水道工事(簡易水道より給水対象人数が多い。※簡易水道の給水対象人数は、3~5,000人以内)が完成したのは、昭和34年のことでした。新座や朝霞(昭和28年完成)よりも遅れた原因是、新座や朝霞に比べて水事情が比較的恵まれていたことや当時志木小学校の鉄筋コンクリート改築などがあり、町の財政が逼迫していたこともあったようです。

志木市で上水道の普及率がようやく100%近くに達したのは、昭和50年のことでした。

## ●野火止用水の終焉と復活

昭和30年代後半になると、用水の上流の小平市や東村山市などでは宅地化が進み、大量の家庭排水が流れ込んだため野火止用水の汚染が進み、下水堀化していきました。

用水の汚染と上水道の普及の中、ついに東京都は、昭和48年野火止用水への分水を止めた

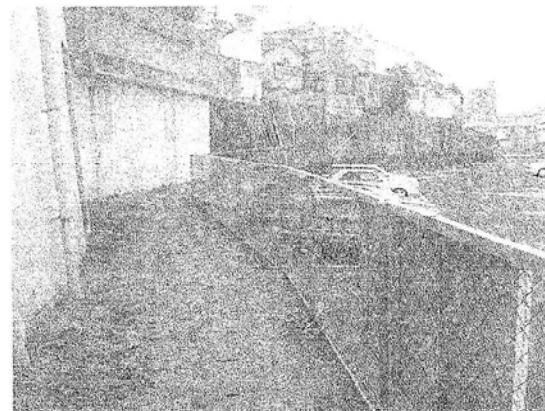
のでした。

ここに、318年間にわたり流れ続け、流域住民に絶大なる恩恵をもたらし続けてきた野火止用水は、その名と堀割のみを残して終止符を打つたのでした。

しかし、その後まもなく野火止用水の流れをとり戻そうという声があがり、多くの人々の努力により玉川上水の自然水ではなく多摩川上流処理場(昭島市)の下水の二次処理水ではありますが、昭和59年8月についに野火止用水に流れがかえってきたのでした。

### 【参考文献】

- 『野火止用水 歴史と清流復活の賛歌』斎藤利夫、  
大谷希幸著 平成2年4月10日 有峰書店新社
- 『しきふるさと史話』神山健吉、井上國夫、高橋長  
次著 平成6年11月30日 志木市教育委員会
- 『志木市史 通史編下 近代・現代』 平成元年3  
月31日志木市
- 『志木市郷土誌』 昭和53年3月1日 志木市



志木市と朝霞市の市境付近の野火止用水跡  
(河童のつづらHPより)

1/27・28  
(土・日)

## 第7回北東北「川・水環境」ワークショップ

第2回「川の日」ワークショップ関東大会 準グランプリの副賞で岩手県遠野市まで行つてきました。

民話のふるさととして有名な遠野は、民俗学好きな私としては一度は訪れてみたい場所のひとつでした。(特にカッパ淵)

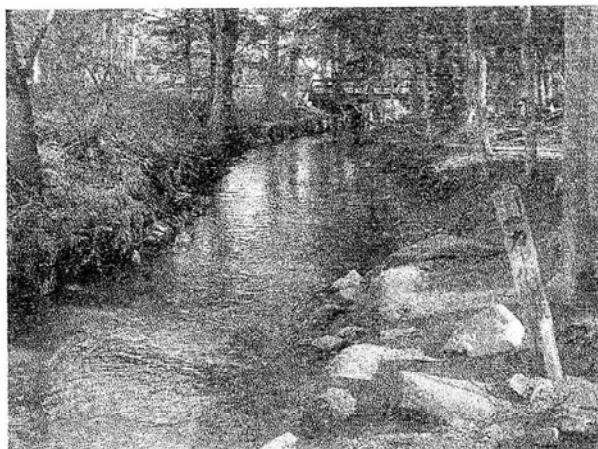
遠野の街並みは、日本の原風景とそれに合わせたオシャレな作りが、こじんまりと溶け合つてイイ所でした。

私は、昨年11月に開催した第2回「川の日」ワークショップ関東大会の事例紹介ということで、志木まるごと博物館“河童のつづら”的話をしました。

ただ、遠野のように自然や歴史民俗、文化、観光資源等が沢山ある地域では、志木まるごと博物館“河童のつづら”的面白さが残念ながらあまり伝わらなかつたようです。”河童のつづら”は、自然や歴史文化に乏しく、自分が住んでいる地域に対して無関心であり、

地元意識（アイデンティティ）の低い人が多い『都市近郊のベッドタウン』ならではの副産物なのかもしれませんね。

(伊藤智明)



河童伝説で有名なカッパ淵



ワークショップ一日目終了後に行われた民話昔語りの様子。方言で聞くオシラサマなどの語りはとても温かかったです。



カッパ捕獲許可証

### ■おまけ 遠野のおみやげ

遠野市観光協会発行の「カッパ捕獲許可証」をおみやげに買ってきました。ただ、今年3月までに、以下の条件で捕まえなければならず、かなり厳しいです。

#### <カッパ捕獲7ヶ条>

1. カッパは生け捕りにし、傷をつけないで捕まえること。
2. 頭の皿を傷つけず、皿の中の水をこぼさないで捕まえること。
3. 捕獲場所は、カッパ淵(※)に限ること。
4. 捕まえるカッパは、真っ赤な顔と大きな口であること。
5. 金具を使った道具でカッパを捕まえないこと。
6. 餌は新鮮な野菜を使って捕まえること。
7. 捕まえたときには、観光協会の承認を得ること。

遠野はとても河童に優しい所でした。



## 河童のつづらのエコミュージアム活動

現在、当会と埼玉県生態系保護協会志木支部が主催して「志木まるごと博物館 河童のつづら」は、地域をまるごと博物館と見立てたエコミュージアム活動です。

博物館の新しいコンセプトであるエコミュージアムは、1971年、地方分権を進めるフランスにおいて提唱されました。フランスではエコミュゼ (Ecomusee)、英語ではエコミュージアム (Ecomuseum)、日本では「生活・環境博物館」「地域まるごと博物館」などと呼ばれています。これはエコロジー (Ecology: 生態学) とミュージアム (Museum: 博物館) という言葉を組み合わせた造語です。

### エコミュージアムの理念

従来型の博物館との違いについては、以下の3つの相違点が指摘されています。

①従来型博物館の目的は「国民」の教育、学術、文化などの発展に寄与することであるのに対して、エコミュージアムは「当該地域社会」の発展に寄与することが目的である。

②従来型博物館は、資料の収集と展示に重点を置くが、エコミュージアムは、資料は遺産として位置づけ、現地において保存・展示し、収集するのは地域の記憶である。

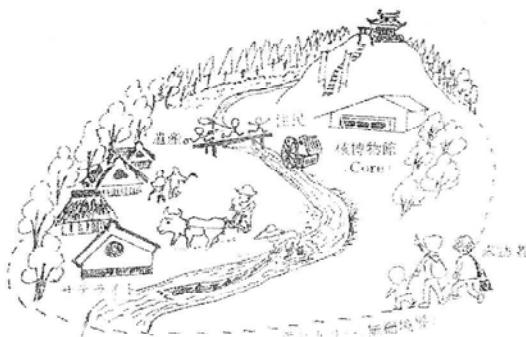
③従来型博物館は設置者主体の管理・運営が基本であるのに対して、エコミュージアムは住民の参加・運営を原則としている。〔新井1997〕

つまりエコミュージアムとは、ある文化圏をテリトリーとし、その住民と行政が協力して地域の「もの」ではなく「記憶」を収集し、そして自然・文化環境を維持、存続するためのしくみ（人々の関わり方）を守り、創造する博物館であるといえます。

### 日本におけるエコミュージアム

フランスで始まったエコミュージアムは、今では欧州、北米、など各地に広まり、日本

においてもその理念と方法が注目され、現在各地で70を越える構想が展開されて



エコミュージアム概念図  
『実践エコミュージアム入門』新井重三より

います。行政、博物館学関係者、都市・地域計画学者、地域づくり実践家などを巻き込みながら、自然保護活動、地域づくり、まちづくりの手法として、たとえば〇〇川流域まるごと博物館、〇〇地域まるごと博物館などの事例が増えています。

### 河童のつづらの活動

以上のような、エコミュージアムの考え方を念頭に置きながら、河童のつづらでは、志木の現状にあった独自の都市型エコミュージアムを目指して、主に以下のような活動を行っています。

①お宝発見ツアーや「野火止用水を訪ねて」や「堤防と樋門を訪ねて」「柳瀬川をジャップジャップ歩く」など地域のお宝を訪ねるエコツアを行っています。

②お宝交流シンポジウム 地域交流とPRのために、「今に残る志木の歴史と自然・みんなでつくろう!! 志木のお宝マップ」「川にかかる自然と文化のまちづくり」などのシンポジウムを開催しました。

③「お宝」データベースの構築 おもにホームページを活用して、お宝や運営に関する研究・情報蓄積・普及を目的に実施しています。今後は、マップや「河童のつづら事典」などへの展開も考えています。

「河童のつづら」が楽しめるエコミュージアムとして成長するよう、これからもよろしくお願い致します。（文責：毛利将範）

# 志木市の環境系審議会等

志木市では、平成10年度に環境基本計画策定に当たる全員公募制の「環境市民会議」を立ち上げましたが、これにはエコシティ志木会員が多数参加し環境基本計画の策定に関わりました。

志木市ではその後、環境基本計画の市民の立場からの推進を目的とした「環境基本計画市民推進会議」を組織、現在は、自然保全再生計画に基づく「自然保全再生協議会」、環境基本条例に基づく「環境審議会」も加わり、3つの会議それぞれに当会役員が発足時より継続して参加しています。

## ■ 志木市環境基本計画市民推進会議

環境基本計画で、進行管理を行なう組織として位置づけられたもので、平成12年度に発足、任期2年、現在4期目で、公募による市民・事業者12名で構成されています。

環境基本計画の推進に当たり、市民・事業者の意見を積極的に反映させることを目的としていますが、主な活動は

①環境基本計画の進捗状況の把握・管理 ②市民・事業者・行政の協働による具体的な施策の推進、であり、②についての最近の活動例としては、委員が小学校に出向き、樹木による二酸化炭素吸収能力を調べる「こども葉っぱ判定士」プログラムを実施し、この参加者と、家庭での省エネルギー度をチェックする「キッズISO」を行なった子どもを合わせ「こども環境博士」に認定し、毎年2月に認定証交付式を兼ねた「こども環境フェア」を開催しています。

## ■ 志木市自然保全再生協議会

平成13年度に制定された自然再生条例に基づく自然保全再生計画で位置づけられたもので、平成14年度に発足、任期2年、現在3期目で、市民・事業者14名で構成されています。

所掌事項は ①自然保全再生計画の進行管理



こども環境フェアでの「流木工作」のようす(平成17年2月)

②公共事業の検証・評価 となっています。  
②の検証・評価とは、自然再生条例及び同運営実施要領で、市が実施する公共工事が自然環境に影響を与える場合には、影響緩和手法を活用し現存する自然ができるだけ減少させないこととされており、この点が守られているかを検証・評価するものです。今年度はこのような工事がないため①について議論しています。

## ■ 志木市環境審議会

平成15年度制定の環境基本条例に基づくもので、平成17年10月に発足し、任期2年、現在1期目で、市民・有識者10名で構成されています。

所掌事項は ①環境基本計画に関すること ②公害の発生源の監視の方法及び市長が行なう公害の防止のための措置に関すること ③環境の保全及び創造についての基本的事項に関するここと、となっていますが、現在主に審議しているのは、間もなく策定から10年の見直し時期を迎える環境基本計画の基本的な骨格づくりについてです。

※環境推進課所管のものとして他に「志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会」があります。

※本文中、会議名、条例名、計画名から冒頭の「志木市」を省略しています。

# ●志木 自然イノフォメーション●

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利)へ  
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info-2.html>

## 《鳥類》

- ◆カツブリ (1) →12/30(土)、1/7(日) ワイス裏【山崎光久】
- ◆チオウゲンボウ (1) →12/30(土)、2/9(金) 水谷たんぼ【山崎光久】
- ◆ハイタカ (1) →1/7(月) 柳瀬川【一斉ガンカモ調査】
- ◆ホオアカ (1) →1/10(水) 水谷たんぼ【山崎光久】
- ◆タゲリ (9) →1/14(日)、1/17(水) 水谷たんぼ 1月14日のタゲリは珍しく9羽が観察されました【山崎光久】
- ◆タゲリ (1) →1/21(日) 水谷田んぼ【柳瀬川ウォッキング】
- ◆カワセミ (1) →1/21(日) 水谷田んぼ【柳瀬川ウォッキング】
- ◆シメ (1) →1/21(日) 水谷田んぼ【柳瀬川ウォッキング】
- ◆キジ (♂2) →1/21(日) 水谷田んぼ【柳瀬川ウォッキング】
- ◆コジュリン (2) →2/9(金) 水谷たんぼ オスは頭が黒く、夏羽に変わることろです【山崎光久】



↑ホオアカ(1/10山崎)



↑コジュリン(2/9山崎)

## 《ほ乳類》

- ◆タヌキ (1) →1/22(月) 朝霞市宮戸4 タヌキの交通事故死に遭遇しました【毛利将範】

## 環境 ひとつちメモ(4) 伊藤 智明

# カエルなどに感染するツボカビにご注意

平成18年12月に、日本で初めてのツボカビ症例がカエルの飼育個体で確認されました。野外に感染が拡大しないよう、正しい知識を身につけ、取扱いに十分注意してください。ツボカビとは、両生類に感染して高い致死率をもたらす真菌（カビ）です。南アフリカが原産地と考えられおり、これまで南北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵入が確認されています。

人間には感染しませんが、ツボカビが野外に拡散すると、カエルをはじめとする在来の両生類に深刻な影響を及ぼすことが予

想されます。また、一旦野外に拡散したツボカビを根絶することは非常に困難です。ツボカビの野外への拡散を阻止することが重要ですので、ペットのカエルなどを野外に捨てることは厳禁です。

（詳細）環境省「カエルなどに感染するツボカビにご注意」  
<http://www.env.go.jp/nature/info/tsubokabi.html>



ツボカビ症に感染したカエル（種名不明）  
<http://web.hc.keio.ac.jp/~fukuyama/frogs/tubokabi/examp1.html> より

## ☆会員状況

12月1日までに2006年度分更新済みの会員は、個人65、団体2、賛助1です。

## ■カンパありがとうございました

山口 美智江さん  
伊藤 智明さん



★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2007年度も引き続き継続をよろしくお願いします。

★会費の有効期間は宛名シールに書いてありますので、チェックしてください。

## ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場  
生活クラブ生協志木支部

## ■当会が参加している、または主な協力団体

いろは遊学館利用者の会  
黒目川に親しむ会  
グループぽんぽこ  
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部  
志木NPOネットワーク会議  
志木おやこ劇場  
志木市コミュニティー協議会  
市内小中学校  
新河岸川水系水環境連絡会  
柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！  
当会のホームページ

公式ホームページ  
<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」  
<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

参加してきました

2/13(月・祝)

新河岸川流域

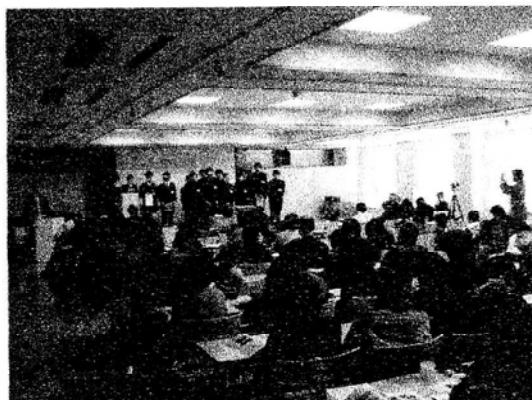
「第3回川でつながる発表会」

新河岸川流域川づくり連絡会が主催する「第3回川でつながる発表会」に行ってきました。今年は、小学校2校、中学校2校、高校3校、大学2校が調査・研究や活動成果の発表がありました。

この発表会は、新河岸川流域（不老川・砂川堀・柳瀬川・黒目川・白子川等支流含む）の各地で活動する学生たちの発表会で、自分たちの活動の意義や、同じような活動をしている大人の人たちとの世代間交流を感じることの出来る場として、とても貴重なイベントだと思います。また、発表した人たちが頼もしく、大人になる頃がとても楽しみです。

大人の発表会もやりたいなあ～と思いながらも、終了後は、参加した大学生や環境市民団体の方々と一緒に近くで、川でつながる大人の（お酒の）懇親会をしました。

（伊藤智明）





## 「田子山富士の探検」

●くらしと言葉 41 尾崎 征男

今日は遠出の遊びだ。それも洞窟の探検ときたから俺は張り切った。

市場の仲間の待つお富士山に一目散に走った。吐く息は白い。

履き慣れているとは云え、足元は磨り減った草履に足袋での駆け足であつたからとても疲れた。

石の大きな鳥居を潜ると石畳が続きその先に見上げるよう

富士山は有つた。そこの大松の下に、口を開

けているのと結んでいる二匹の獅子がいた。どちらもカツと目を見開き身

を屈めて今にも飛びかかるやうとする姿で、とつても怖い。皆がその上に馬

に乗るには、ぶら下がつたりして遊んでいるところ

にヤット着いた。

オセーデジヤネエカヨ。オメー、キネーかと思つた

ゾ。友達の永治ちゃんと譲ちゃんとその仲間、3人が待つていてくれた。

尾崎、ローソク持つてきたか。ウン、持つてきたんだ

が、二つに折れちゃつたよ。マア使えるだんべ、何す

んだと聞いたが、後ついて来いと言うだけで、山の裏

手に回つた。と、そこには、3尺ぐらいの穴がボッカリ

と開いていた。

俺は、ハハーン、此処に入るんだなと、すると、永

治ちゃんがローソクに火を点け、穴の中にかざしながら

恐る恐る、ここんで入つていつた。俺、後に続こうとし

たらば、譲ちゃんが、少し待て。すると、穴の中から、

オーデ大丈夫だ。何でなんだ。ローソクの火は消えね、穴

の中には冷たい風と、ツーンとしたかび臭い匂いが一杯だ。

俺は、穴藏の中で嗅いだ匂いと同じだとすぐに思つた。更に進

むと二股に分かれているところに着いた。ドッヂに行くんだ。真つ直ぐだというのでそのまま進むと広い場所に着いた。そこ

は畠二枚ぐらいの広さとやつと立てるほどの場所であった。みんなこの場所に集まり、誰かが言つた。

オメーエナ、昔ここに鬼が住んでいて付近の家々に悪戯したんだつてヨ。その鬼を煙でエブリ出して、その後に鬼が棲まねエように、この奥に仏像を祀つて或るんだつてヨ。奥に行つてみな、オッカネー顔した仏像が拳骨握つているぞ。本当か、四ツん這いになつて奥へ奥へと進むと突き当つたところに仏像が三。薄暗い中でローソクの灯りに照らし出された像は、帽子を被り両手を握り忍術使いみたいなカッコして睨みつけていた。とて

も怖く、背筋がゾーとした。こんな怖くネーヨ、と言つていた奴も、像に触る事が出来ず後戻りだ。

オメー、オッカネーから出るベ。二股のある横穴の方に戻る。

こちらも、こごまないと入れない。オメー、なんだかビヨンビヨ

ン跳ねる虫がいるゾ。イナゴかな。何言つてているんだヨ、こん

な暗い穴の中にいる訳無いだんべ。ジャ一何だよ。多分ナ一、穴

藏小僧だんべーと俺は言つた。捕まえて見ると長い髭と長い足、

体は透き通るような茶色をしていた。ヤツバリ穴藏小僧だ。赤蛙

も居るぞ。何でだよと聞いたので、俺の家の穴藏には必ず二匹が

セットで居るんだと話した。冬にはヘビがいるのかな、狸もいるのかな:みんなでんに、勝手な事を話していた。

昔、鬼が住んでいた話を聞き俺は誰より先に外に出た。

何で外は明るいだんべナ。今度は山を登んべ。譲ちゃんが早くも3合目で、早くあがつて来いよと言う。途中に猿がいるゾ。探してみな、他にも天狗もいるゾー。俺は一生懸命探した。

犬や雉もいるのかな。

何でだ。鬼が島の桃太郎を思い出したやつたんだヨ。オメー、

アブネーゾ。石に腰掛けるんじゃネエド崩れるゾー、と声が掛かる。

そうこうしているうちに頂上に着いた。高いなー。

そこで俺は両手いっぱいに広げ深呼吸した。みんなも続き、空

気がウンメイナ:と言つた。ここが志木駅の高さと同じだと誰か

聞いた覚えがあつた。本当かな? 友達が言つた。こっちの方

が高いだんべ、なんてつたつてお富士山だと、と。尾崎んちは

ドッヂだと聞かれたので駅がアツチだんべ、だから富士山の見え

る西の方を指さした。

その頃、宗岡の農家から夕飯の支度する竈の煙が、白くて薄い雲の様に細くなびくのが目に入つてきました。

俺は、ハハーン、此処に入るんだなと、すると、永治ちゃんがローソクに火を点け、穴の中にかざしながら恐る恐る、ここんで入つていつた。俺、後に続こうとしたらば、譲ちゃんが、少し待て。すると、穴の中から、オーデ大丈夫だ。何でなんだ。ローソクの火は消えね、穴の中には冷たい風と、ツーンとしたかび臭い匂いが一杯だ。俺は、穴藏の中で嗅いだ匂いと同じだとすぐに思つた。更に進むと二股に分かれているところに着いた。ドッヂに行くんだ。真つ直ぐだというのでそのまま進むと広い場所に着いた。そこ

(完)

\*田子山富士塚 県指定・有形民俗文化財。志木市本町2丁目。築造明治5年(1872)。高さ8.5m、円周125.3m、斜度39度。御胎内(全長23.1m)を持つ。

# 2007年度 役員候補者を公募します

## 会の運営にかかわりませんか？

当会には「理事」と「監事」の役員がいて、理事会や運営委員会などで会の運営にかかわる事項を協議・執行しています。5月に開かれる定期総会での役員改選に伴い、役員候補者の公募を行います。

定期的に開かれる理事会や運営委員会に出席でき、会の運営に参加してみたい方、是非立候補して下さい。

### （公募する役員候補者と定数）

●**理事** 10名～15名。当会の業務を執行します

●**監事** 1～2名。理事の業務執行や会の財産の状況を監査します

◇無報酬 ◇任期 1年

◇応募締切 4月2日（月）

NPO法人工コシティ志木定款（抜粋）

第12条 本会に次の役員を置きます。

(1) 理事 10名以上15名以内

(2) 監事 1名または2名

2 理事の中に次の役職者を置きます。

(1) 代表理事 1名

(2) 副代表理事 1名または2名

(3) 部会長 各部会に1名

(4) 事務局長 1名

3 代表理事とその他の理事および監事は、総会において選任します。

4 副代表理事、部会長および事務局長は、理事の互選とします。

5 監事は、理事または本会の職員を兼ねることはできません。

（以下略）

## 役員選出の今後のスケジュール

①応募が定数を超えた場合 →全応募者で協議して定数以内に絞ります。

②応募が定数に足りない場合 →応募者が推薦する人を加えて定数を満たします。

③4月の理事会で応募者を「2007年度役員候補者」として総会議案書に掲載します。

④5月20日（日）の定期総会で選出します。

## ◇応募・問合せ

電話、FAX、メール等で天田眞まで  
(現役員の方も改めて意思表示をお願いします)

電話・FAX=048-471-1338

Eメール=eco-shiki@ff.e-mansion.com

◆2月に、気候変動に関する政府間パネル（I P C C）は地球温暖化により21世紀末には平均気温が最高6.4℃上昇し、海面が59cm上昇するだろうと予告しました。

◆温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>などの吸収源である貴重な緑。志木市内には河川敷や斜面の一部の林などほんのわずかしか残っていません。その質や存続について、いま考えてみる必要な時期にあるという気がしています。  
(ふくろう)

エコシティ志木通信  
第45号・2007年3月1日

発行

## NPO法人工コシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com



古紙配合率100%再生紙を使用しています